

シネラマ

カラー作品 / パナビジョン
超ステレオ音響 / スーパーシネラマ方式上映

脱走できるか！
このままくたばるか！
執念の脱獄に挑む男パピヨン
今世紀最大のスケールで
映画化した
驚異のアドベンチャー・ロマン！



原作 ■ アンリ・シャリエール
〈邦訳 / タイム・ライフ社〉
「パットン大戦軍軍団」でアカデミー賞に輝く
監督 ■ フランクリン・J・シャフナー
脚本 ■ ドルトン・トランボ
製作担当 T・リッチモンド
製作 R・ドルフマン / F・J・シャフナー
音楽 ジェリー・ゴールドスミス
(主題曲サントラ盤 / オデオン・レコード)

スティーブ・マックイーン ダスティン・ホフマン

パピヨン

Steve McQueen Dustin Hoffman
a Franklin J. Schaffner film
"Papillon"

東和提供 フィルム・コロナ超特作



5月中旬ロードショー

テアトル銀座
(561) 7938

新宿 武蔵野館
(354) 5670

■劇場でご覧になる最後のチャンスです。お見逃しなく！

「ぜひ見たい!」「もう一度見たい!」——巨大な感動。
が3年ぶり、熱狂の嵐とともに今よみがえる!

胸の中央に刻んだ自由のシンボル《蝶》のイレスミ。人呼んで「パピヨン」フランス語で蝶と愛称された男ハアンリ・シャリエールこそ、「真の自由」を自らの手で戦いつた男である。

★執念の脱走に挑む男パピヨン

「二十世紀最大、そして最後の冒険家」といわれるパピヨンハシャリエールの想像を絶する波瀾にみちた冒険の数々——。

無実ながら殺人のぬれぎぬ。本国フランスを遠く隔てた南米仏領ギアナでの虐待の日々。だが、脱走すること数十回、鋼鉄のような意志と、強靱な体力で挑む「自由へのはばたき」。

蝶が鎖を断ち切る姿にも似た、その執念の生きざまは、観る者に勇氣、情熱、生きる歓びを限りなく与え、今世紀最大の感動を呼んだ空前のアドベンチャー・ロマン映画である。

★二大スーパー・スターの激突

主人公パピヨンには、「栄光のル・マン」「タワーリング・インフェルノ」の人気No.1スター、ステイブ・マックイーン。地獄の牢獄の辛酸にもめげず、あくなき脱出を試みる姿は、マックイーン最高の名演技と言われ深い感動を与えた。

一方、パピヨンと獄中で固く友情に結ばれる男ドガには、「真夜中のカーボーイ」「マラソンマン」の名優ダスティン・ホフマン。超一流の演技派らしく、時おりみせるユーモアな仕草は、爆笑をさそう。

初公開ではこの二大スーパー・スターの初顔合わせが話題を呼び爆発的ヒットを記録した。二人の男の友情と、その対照的な生き方が、この映画の最高の見ものである。

★一千万部の超ベストセラー

「事实は小説より奇なり」というが、パピヨンの回想録こそ、それを実証した。

六九年、フランスで発表されるや空前のベストセラーを続け、一年間で百三十万部を記録、さらに世界十七カ国で翻訳され、なんと一千万部をこす超ベストセラー。

★世界映画界最高のスタッフ

製作費四十億を投じたこの世紀の超大作のプロデューサーは「レッド・サン」のロベール・ドルフマン。監督は「パットン大戦車軍団」でアカデミー賞に輝いたフランクリン・J・シャフナー。脚本は、執念の作家といわれ「ジョニーは戦場へ行った」で監督・脚本を手がけ、この「パピヨン」が遺作となったドルトン・トランボ。

また音楽は、アメリカ映画界のベテラン、ジェリー・ゴルドスミスが担当。哀愁をおびたメイン・テーマは、A・ウイリアムス、E・ファンパーデインクなど二十数種類発売されミリオンセラーを続けている。

まさに、世界映画界が総力を結集した、二度と揃う事のない空前の顔ぶれだ。

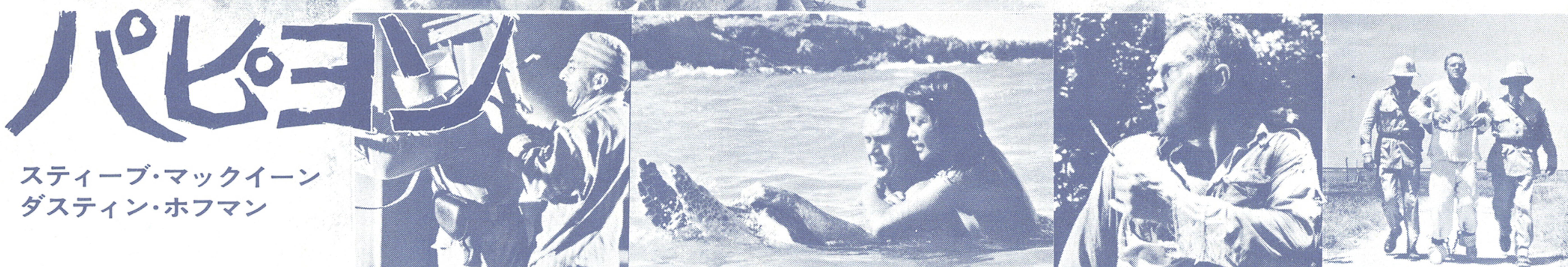
★パピヨンひとくちメモ

- マックイーンはギャラ六億円、ホフマンは三億七千五百万円。製作費四十億円。
- アメリカ、ヨーロッパで大ヒット、わが国でもロードショーで二百万人を動員。
- 高さ三m、広さは五歩程度、四六時中監視され、沈黙が強いられる恐怖の「人喰い牢」等、実録の持つ凄じい事実が暴かれた。

Steve McQueen Dustin Hoffman
a Franklin J. Schaffner film
"Papillon"



カラー作品●パナビジョン●東和提供/アメリカ映画



スティーブ・マックイーン
ダスティン・ホフマン

今世紀最大の冒険ロマンに集まる絶賛の声!

■かつて見たことがない
ぼくは、これほど美しく強烈でふしぎな魅力をたたえた映画をかつて見たことがない。

池波正太郎氏〈作家〉

■男の勇氣に拍手

波乱万丈の冒険をのりきる男の勇氣に拍手。感動した。

千葉真一氏〈俳優〉

■2大スターが最高

「大脱走」×「ゲッタウェイ」にもまさる「パピヨン」ハマックイーンとホフマン、この2大スターの絶妙なる対照が最高のダイゴ味。

小森和子さん〈映画評論家〉

■不屈のファイト

不屈のファイトと気魄。最後まで闘いぬく男の姿に魅せられた。

輪島功一氏〈元世界ジュニアミドル級チャンピオン〉

■映画は体験

パピヨンとともに拘禁反応に襲われ、パピヨンとともに脱出の喜びにふるえた。映画は体験である。

河野典生氏〈作家〉

■自由への人間讃歌

フランスにもあった「収容所列島」の恐るべき事実。これは圧倒的な迫真力で描いた自由への比類なき人間讃歌だ!

熊井 啓氏〈映画監督〉

■男の友情に泣いた

男の友情の底知れぬ深さ、強さ、そして、生への凄まじい執着に魂がゆさぶられる思い。いまままでに泣いた映画はない。

戸川昌子さん〈作家〉

■胸せまる迫力

息をのむ、胸せまる、この迫力!この執念!

淀川長治氏〈映画評論家〉

劇場でご覧になる最後のチャンスです。
この感動の巨編をお見逃しなく!